

第12回シンポジウム

開催日：平成26年3月3日（月）15:00～18:00

場 所：スタジアムプレイス青山9階 ビジョンホール

スポーツによる地域活性化

- I. 講演 八木 和広 氏（国土交通省観光庁 スポーツ観光推進室長）（資料のみ掲載）
演題：観光立国の実現とスポーツツーリズムの推進について

- II. 第2回 スポーツ振興賞授賞式 (略)

- III. スポーツ振興賞受賞者による発表 (略)

☆スポーツツーリズム賞

〈国土交通省観光庁 長官賞〉受賞者

神戸ランニングフェスティバル実行委員会

発表者：西海恵里奈 氏（事務局）

〈日本スポーツツーリズム推進機構 会長賞〉受賞者

諏訪湖温泉ラージボール卓球大会実行委員会

発表者：大島 和憲 氏（近畿日本ツーリスト（株）松本支店）

☆スポーツツーリズム賞

〈経済産業省商務情報政策局長賞〉受賞者

一般社団法人洞爺湖温泉観光協会

発表者：佐々木清志 氏（事務局長）

〈日本商工会議所 奨励賞〉受賞者

ツール・ド・三陸2013実行委員会

発表者：韓 祐志 氏（（一社）グッド・チャリズム宣言プロジェクト代表理事）

日向 涼子 氏（モデル）

〈スポーツ健康産業団体連合会 会長賞〉

株式会社デサント

発表者：戸井田朋之 氏（取締役）

I. 講演

演題：観光立国の実現とスポーツツーリズムの推進について

講演者：八木 和広 氏（国土交通省観光庁 スポーツ観光推進室長）

観光立国実現と スポーツツーリズムの推進について

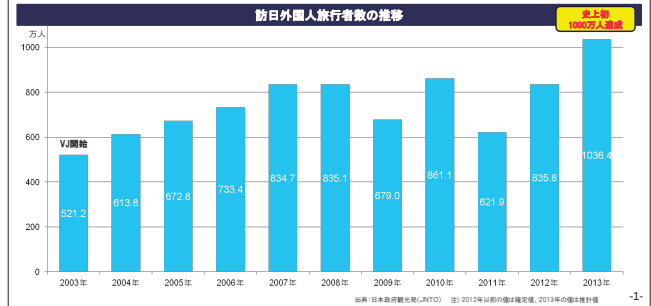
平成26年3月3日
観光庁 スポーツ観光推進室
八木 和広



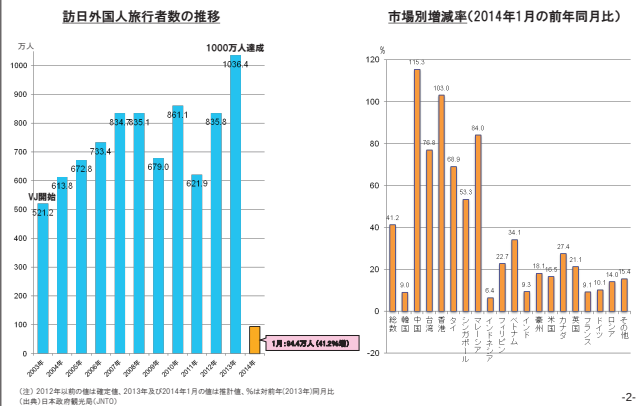
Japan Tourism Agency Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

訪日外国人旅行者数1000万人の政府目標を達成

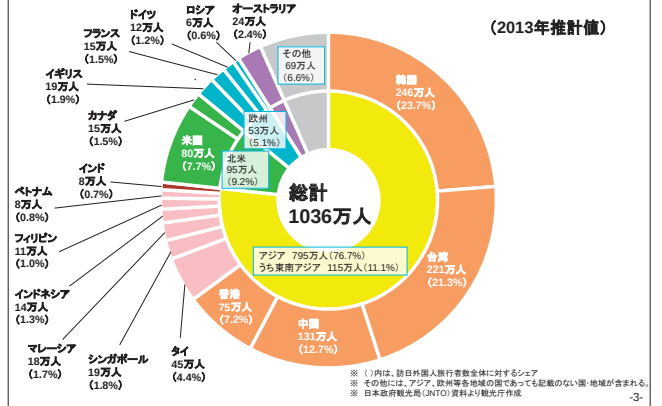
- 2013年の訪日外国人旅行者数は、1036万人（前年比24.0%増）となり、2003年のビジット・ジャパン事業開始以来の政府目標であった年間1000万人を史上初めて達成した。
- 円高の是正による訪日旅行の割安感の浸透の他、昨年7月以降のビザの緩和、訪日プロモーションなど、政府及び官民を挙げて取り組んできた諸施策が奏功したことによる成果と考えられる。



2014年1月の訪日外国人旅行者数

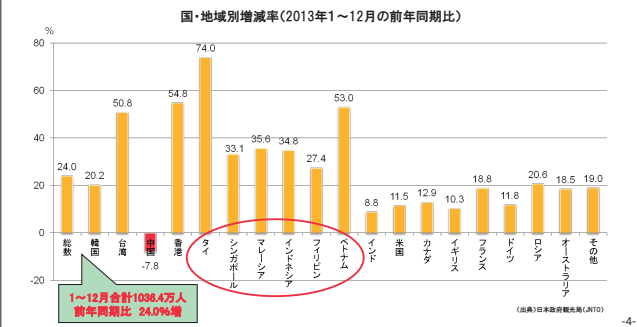


2013年の訪日外国人旅行者数及び割合（国・地域別）

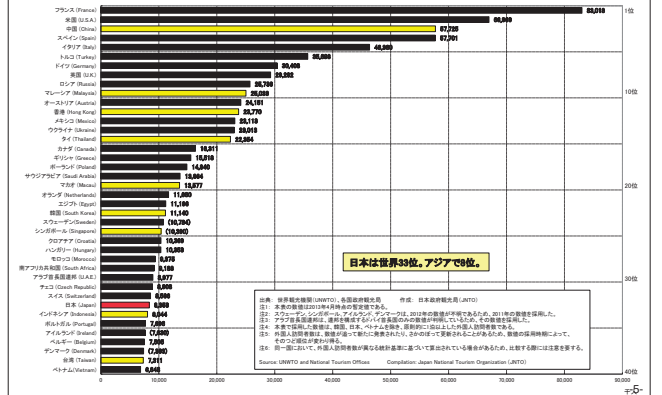


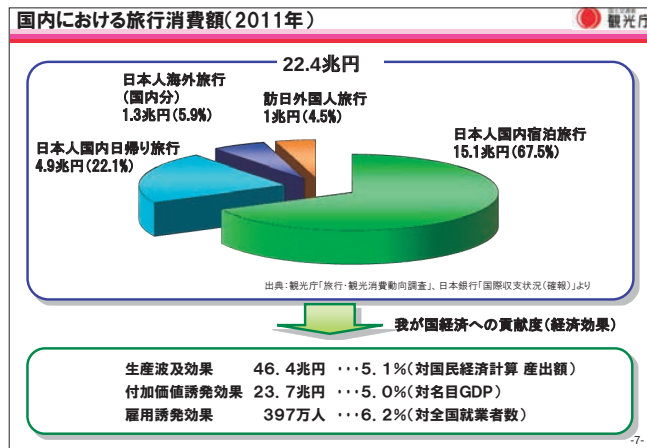
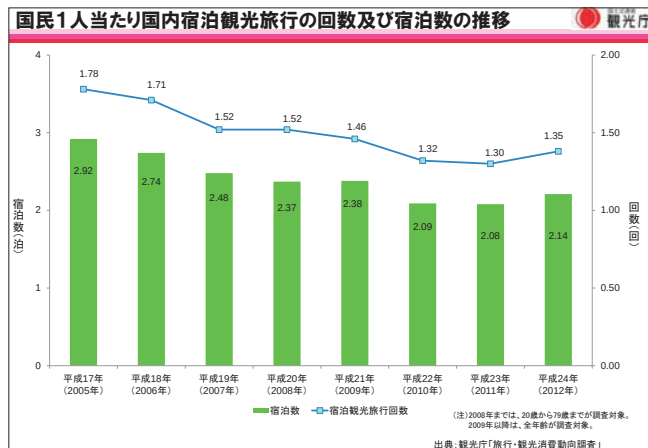
2013年の訪日外国人旅行者数の増減率（国・地域別）

- 国・地域別では、昨年7月以降ビザ緩和を行った東南アジア諸国を含むアジア地域を中心に高い増加率を示した。



外国人旅行者受入数の国際比較（2012年）





観光立国推進関係会議について

平成26年1月17日、第3回観光立国推進関係会議が開催され、夏を目標に「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」を改定することとなった。

【安倍内閣総理大臣発言】

- 我が国は「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会」の開催という大きなチャンスを得た。これを追い風として、2020年に向けて、2000万人の高みを目指していきたい。
- このため、各関係においては、アイデアを総動員し、外国人旅行者に不便な規制や障害を徹底的に洗い出していきたい。
- できることは速やかに実施に移していくとともに、現行の「アクション・プログラム」を改定し、政府一丸となって観光立国を加速できるよう、協力をお願いする。

【太田国土交通大臣発言】

○ アクション・プログラムの改定には、「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会」の開催も見据えて検討してまいりたい。とりわけ、ビザ要件の緩和、災害時の外国人旅行者の安全確保、多言語対応、無料公衆無線LAN環境の整備、出入国手続の迅速化・円滑化等の施策について加速させていきたいと考えており、関係関係におかれましてはご協力をお願いしたい。

【今後の予定】

1月～5月 観光立国推進ウーキングチーム、有識者会議
↓
実施可能な施策を速やかに実施
6月 観光立国推進関係会議(アクション・プログラム改定)

新「観光立国推進基本計画」(平成24年3月30日閣議決定)

(観光資源の活用による地域の特性を生かした魅力的な観光地域の形成)
(新たな観光旅行の分野の開拓)

○スポーツツーリズムの推進

スポーツツーリズムとは、スポーツを「観る」「する」ための旅行に加え、スポーツを「支える」人々との交流や、旅行者が旅先で多様なスポーツを体験できる環境の整備も含むものであり、国内旅行需要の喚起やゴルフ、スキー等スポーツへの指向性の高い外国人旅行者の訪日促進に寄与するものである。

MICE推進の要となる国際スポーツイベントの招致活動は、訪日プロモーションやシティセールスと連動することで相乗効果を有するものである。

このため、平成23年度に策定された「スポーツツーリズム推進基本方針」に基づき、地域スポーツコミッションの設立を促すとともに、情報の集約・発信、国際スポーツイベントの誘致・開催支援などを担うスポーツツーリズム推進連携組織を創設する。また、2019年のラグビーワールドカップの日本招致成功の経験を活かし、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの招致に取り組む。

「スポーツ基本計画」(平成24年3月30日文科科学大臣決定)

子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実

○ 国は、旅行先で気軽に多様なスポーツに親しめる**スポーツツーリズム**を推進し、子どもにとって居住地域だけでは不足しがちなスポーツ機会を向上させる取組を推進する。

住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備

○ 国及び地方公共団体は、大学、スポーツ団体及び企業等と連携して、**スポーツツーリズム**や観光によるまちづくりに関する専門的知識を有する人材の育成及びそれら地域スポーツにおけるコーディネート等としての活用を促進する。

○ 国及び地方公共団体は、例えば「**地域スポーツコミッション**」等の連携組織の設立を推進するなど、スポーツを地域の観光資源とした特色ある地域づくりを進めるため、行政と企業、スポーツ団体等との連携・協力を推進する。

スポーツに係る国際的な交流及び貢献の推進

○ 国は、スポーツ団体や大学等と連携し、訪日外国人への武道等の体験機会を設けるなど、**スポーツツーリズム**による国際交流を推進する。

日本再興戦略 -JAPAN is BACK- (平成25年6月14日閣議決定)

第Ⅰ. 総論

1. 成長戦略の基本的考え方
2. 成長への道筋
3. 成長戦略をどう実現していくか
4. 進化する成長戦略
5. 「成長への道筋」に沿った主要施策例

第Ⅱ. 3つのアクションプラン

一. 日本産業再興プラン

二. 戦略市場創造プラン

テーマ1: 国民の「健康寿命」の延伸
テーマ2: クリーン・経済的なエネルギー需給の実現
テーマ3: 安全・便利で経済的な次世代インフラの構築
テーマ4: 世界を驚かす地域資源で強地域社会の実現

① 世界に冠たる高品質な農林水産物・食品を生み出す豊かな農山漁村社会
② 観光資源等のポテンシャルを活かし、世界の多くの人々を地域に呼び込む社会

三. 国際展開戦略

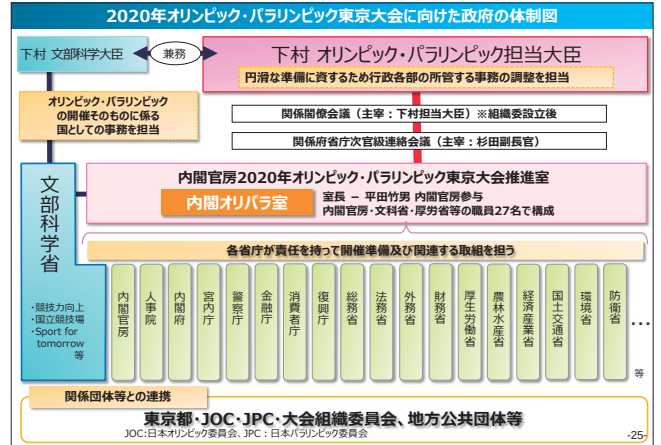
「官民協働した魅力ある観光地の再建・強化」事業

地域の特色ある素材の発掘や地域と旅行会社、交通事業者、旅行メディア等の総力を結集した枠組みによる確実な商品化と情報発信等を行い、魅力ある観光地づくりを推進

○ 市場に対して訴求性が高く、旅行商品として定着し、その地域の持続的な活性化につながるか、という観点等から、全国の78地域で事業を実施（平成25年3月に地域を選定）。

○ 地域の特色ある資源を活用するという観点から、地域の食・酒、農業体験、美容・癒し、伝統工芸・芸能、島のくらしそのもの、サイクリング・トレイルランニングなど様々な素材を旅のテーマとした取組を実施。試行ツアーによる効果検証を踏まえた観光資源の確実な商品化などを進める。

選定されたスポーツ関連案件の例	事業名	地域
	北海道の地域資源を活用したサイクリング観光客の誘致促進事業（企画者：北海道農工会議所連合会）	北海道内全域
	びわ湖・トレイルランニング プロジェクト（企画者：びわ湖びわこスポーツセンター）	滋賀県内全域
	高知のベースボール・フリスビー・地域交流がプロ野球選手を育てる〜（企画者：高知ファイティングドッグス球団株式会社）	高知県高知市、越前市
	草野球キャンプ宮古島（企画者：宮古島オリンピック協力会）	沖縄県宮古島市



2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた観光庁の体制

○ 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の円滑な準備に資するため、観光庁内に観光庁審議官を室長、課長クラスを副室長とする「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会準備室」を設置。（2013年10月4日）

○ 当準備室は、過去の類似事例の情報収集、関係業界や省庁等との連絡調整、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を中心とした受入体制に関する調査・企画立案などを担う。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に関する観光関連の連絡会を開催

○2013年10月16日、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に關する今後の行政の動き・取組等についての情報提供を目的とした連絡会を開催。

○行政からの情報提供として、観光庁、鉄道局、自動車局、海事局、港湾局、航空局より説明を実施。

○早稲田大学スポーツ科学学術院 原田宗彦教授より「オリンピックと観光」について特別講演も実施。

※「カルチュラル・オリンピック」
ロンドン大会開催4年前の2008年からロンドンのみならず英国全土で開催され、合計で約181にも及ぶ様々な文化イベントに4,300万人の人々が参加したプログラム。

参加者
農林省、農工会議所、コンベンション事業協会、ジャパニゼーション・ツーリズム協会、選評協会、旅行事業者、ホテル・旅館、不動産会社、レンタカー協会、バス協会、ハイパー・タクシー協会、自動車メーカー、航空会社、空港ターミナル会社、旅客鉄道、クルーズ事業者、鉄道事業者、広告代理店、メディア、放送局、IT関連企業、都道府県・政令市など

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた観光戦略

2013年
2020年
訪日外国人2000万人時代へ
東京をグローバルウェルとして地方へ（東京プラス1、プラス2）
オリンピック効果の持続
東京五輪開催

○魅力ある観光地づくりを促進し、オリンピック開催効果を地方に波及

○オリンピック開催国「日本」という国際的注目度を活かした訪日プロモーション

○各種国際競技大会の日本各地への誘致

○事前合宿の日本各地への誘致

○オリンピック・パラリンピックに関する文化プログラムの実施

○オリンピック開催決定を契機とした MICE 誘致のプロモーション強化

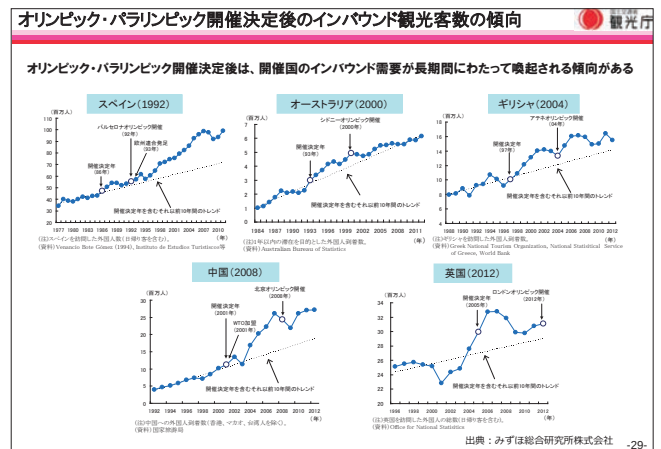
○外国人受入環境の整備
多言語対応、無料Wi-Fi、買い物環境（免税店、クレジットカード）、宿泊施設の充実・多様化・情報提供、OQの充実、ファーストレーン設置、案内所・案内ガイドの充実等

2016年 リオデジャネイロ五輪

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の経済波及効果

経済効果の試算

試算を行った主体	経済波及効果 (生産誘発額)	雇用誘発数	観光関係
東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 (2012年6月)	約2兆9600億円	約15万2千人 (東京都：約8万4千人 その他の地域：約6万8千人)	—
みずほ総合研究所株式会社 (2013年9月)	約2.5兆円	約21万人	①観光客消費 2074億円 観光客数 海外90万人を含む505万人
森記念財団 都市戦略研究所 (2014年1月)	約19.4兆円	約121万人	①訪日外国人の増加 (消費拡大1570億円) ②宿泊施設の建設増加 (建築投資額大) 3950億円



事前トレーニングキャンプ地について(その4)

④ 2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会の現在の状況について

○2011年5月25日の報道から
州と都市の自治体の代表を集めて、事前合宿地に関するセミナーが開催された。ブラジル全国から選ばれた355の候補地が次のステップに進む。

○2012年1月24日の報道から
2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック組織委員会は、事前トレーニングキャンプ候補地として73都市、172施設を承認したことを発表。承認された施設は、国際競技団体やNOCs、NPCsによって指定された厳しい技術基準を満たしているか否かの12か月の評価を経て選抜された。

○2012年7月25日の報道から
2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック組織委員会は、来週ロンドンで各国代表を集め、ブラジルにおける事前合宿施設の公式ガイドを発表する。これは主にオリンピック経験が少ない国が活用するためのもので、オリンピック大会は既に直接、各クラブや都市との交渉を進めている。

○2013年3月12日の組織委員会公式サイトから
2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック組織委員会は11日、オリンピック事前合宿施設のリスト登録手続きを新たにし、技術的要件を満たし、国際競技団体の推薦のあるブラジル全土のスポーツ施設からの募集を4月19日まで受け付ける。新たにリストに加えられる可能性が高いのは、連邦・州・市・公立・私立学校、軍隊、民間スポーツクラブ、スポーツ系企業等の所有する施設。



参考: Rio 2016 Pre-Games Training Camps Guide <http://rio2016.com.br/eng/training-camps/>

⑤ 2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップでは、(公財)ラグビーワールドカップ2019組織委員会が2015年3月頃の試合開催地決定後、事前キャンプ地の選定プロセスを始める予定。

-36-

平成25年度以降に開催される主な国際競技大会等

開催年	国・地域	大会名	開催予定地・期間	国・地域	大会名	開催予定地・期間
平成25年 (2013年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(団体)	柔道	4/29-5/5
平成26年 (2014年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	5/5-5/14
平成27年 (2015年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	5/14-5/23
平成28年 (2016年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	5/23-5/31
平成29年 (2017年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	5/31-6/7
平成30年 (2018年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	6/7-6/14
平成31年 (2019年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	6/14-6/21
平成32年 (2020年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	6/21-6/28
平成33年 (2021年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	6/28-7/5
平成34年 (2022年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	7/5-7/12
平成35年 (2023年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	7/12-7/19
平成36年 (2024年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	7/19-7/26
平成37年 (2025年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	7/26-8/2
平成38年 (2026年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	8/2-8/9
平成39年 (2027年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	8/9-8/16
平成40年 (2028年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	8/16-8/23
平成41年 (2029年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	8/23-8/30
平成42年 (2030年)	第1回世界選手権大会	バスケットボール	日本(中国)	2014年世界選手権大会(個人)	柔道	8/30-9/6

-37-



ラグビーワールドカップ2019 日本大会 概要

- ◆主催：国際ラグビーボード(International Rugby Board：IRB)
- ◆開催予定時期：2019年9月～10月予定(約7週間)
- ◆参加チーム：20チーム
- ◆試合形式：全48試合 予選プール：40試合／決勝トーナメント：8試合(3位決定戦含む)
- ◆歴史：第1回 1987年 ニュージーランド・オーストラリア共催 / 第2回 1991年 イングランド
第3回 1995年 南アフリカ / 第4回 1999年 ウェールズ / 第5回 2003年 オーストラリア
第6回 2007年 フランス / 第7回 2011年 ニュージーランド / 第8回 2015年 イングランド
第9回 2019年 日本
- ◆大会の特長：
 - ・主要8協会(いわゆるラグビー強国・文化国)以外での初開催。当然アジアでも初開催
 - ・ラグビー(7人制)がオリンピック種目に採用されてから最初の大会。2020年にも正式種目。
 - ・世界3大スポーツ大会の一つであり、日本で実施する過去最大の国際スポーツイベント(20チーム、48試合を単独開催)。7週間近い開催期間は他の大会、イベントと比べても長期間。

公財ラグビーワールドカップ2019組織委員会

-38-

RV放映：20の国が地域
放映時間：14:595時間(無断放映)
観覧者：40万人
(RWC2019より)

公式放送局：186万人
公式TV放送局：18万人
(RWC2019より)

主催者(IRB)試算
開催国からの観戦観客者予想
RWC 2015, イングランド大会:40万人
(視聴:ヨーロッパの地・ラグビー人気)
RWC 2019, 日本大会:40万人
(視聴:アジアでの需要開拓・ラグビーファンに上乗せ
て未体験の開催国としての観光目的を含む魅力)

RWC 2019試合開催会場:
2014年秋まで、開催地立候補
2015年夏頃に
全国で10~12会場を決定
(開催地立候補・インフラ整備)

チームホームゲーム(事前・大会中)
RWC 2015開催後継より
選定プロセスを開始予定
(大会地帯20チーム用)

開催国からの観戦観客者Data:
10日間以上滞在:75%以上
平均滞在日数:23日間
公式放送局・販売:全世界 48カ国
販売実績 134,000件
39カ国、1,000名を超える大会
登録メディア関係者が訪問
(RWC2019より)

-39-

第10回ワールド・マスターズ・ゲームズ 関西2021 開催決定！

What's "World Masters Games"

ワールドマスターズゲームズ(World Masters Games)とは、国際マスターズゲームズ協会(MGA:スイスのローザンヌに本部を置く)が主催し、4年に一度、開催される成人・中高年のための『生涯スポーツの世界最高峰の国際総合競技大会』です。これまで、夏の大会が8回、冬の大会が1回開催されています。2020年東京オリンピック・パラリンピックの翌年、2021年に関西での開催が決定しました。

スポーツを楽しみ、スポーツを通じて健康を維持し、いつまでも若々しくあること

ワールドマスターズ・ゲームズは能力や年齢を問わず、スポーツを愛する人々が集い、それぞれの自己の持つ最大の力を発揮して、スポーツに輝ける情熱を示す競技会で、元チャンピオンからビギナーまで、スポーツ愛好家であれば誰でも参加することができます。

World Masters Games の特徴

- 各競技で予選はなく優勝すれば大会出場可能。競技資格や選抜基準を設けず、参加選手は年齢のみ(50歳以上)で選抜される。
- 約30競技からなるプログラムに競技が行われ、各年代別にメダル授与される。
- 元プロや元オリンピック選手も出場し、キャリアを超えて一般アスリートと競技を行う。
- チームスポーツやメダリストは多国籍チームでの出場も可能。
- 両年を用いた大会プログラムが特徴。応募者としての参加選手が選手となる。
- 全ての競技において、各競技者の成績やチームの試合結果がマスターズ大会公開競技として正式発表される。
- 平均9日間の大会期間と前後の観光滞在のため、生涯スポーツ大会では最長の滞在期間。
- ワールドマスターズ・ゲームズに向けて、新たに会場を建設することは禁止されているため、新たな会場建設費用は不要。



-40-

World Masters Games(WMG)の開催地と大会規模

開催年	開催地	開催期間	参加人数	大会規模
1986年	第1回 カナダ	トロント	8300	71
1990年	第2回 フランス	パリ	8300	70
1994年	第3回 オーストラリア	メルボルン	28000	71
1998年	第4回 フランス	パリ	28000	100
2002年	第5回 オーストラリア	メルボルン	28000	97
2006年	第6回 カナダ	エドモントン	28000	98
2010年	第7回 オーストラリア	メルボルン	28000	98
2014年	第8回 フランス	パリ	18000	107
2017年	第9回 ニュージーランド	オークランド	(開催) 28000	
2021年	第10回 関西	大阪	(開催) 28000	

国際マスターズゲームズ協会(MGA) 主要メンバー

- 会長: マグダリーナ・スミス
- 副会長: マグダリーナ・スミス
- 常務理事: マグダリーナ・スミス
- 財務: マグダリーナ・スミス
- 広報: マグダリーナ・スミス
- 競技: マグダリーナ・スミス
- 施設: マグダリーナ・スミス
- 交通: マグダリーナ・スミス
- 医療: マグダリーナ・スミス
- 法律: マグダリーナ・スミス
- その他: マグダリーナ・スミス

World Masters Games の理念

1. 「スポーツ・フォー・ライフ」の理念を普及する。
2. 生涯スポーツの目標設定と長期的関与を促進する。
3. 国際的連帯のもと、多様な背景から構成されるスポーツ大会を開催する。
4. 年齢・性別・人種・宗教・スポーツレベルに関係なく、世界中の成人・中高年にスポーツを促す。
5. 世界中の子どもたちに生涯を通じて競技スポーツを普及するための良い手本を示す。
6. 世界各地からの参加者に対して、開催地や主催国の文化的・観光体験を提供する。

2013年11月10日、西本願寺における基本合意書調印式



World Masters Games(WMG)とオリンピックの違い

World Masters Games	Olympic
●原則4年に一度開催されるマスターズ大会は、世界最大の国際総合スポーツ大会として開催される。 ●各競技で予選はなく優勝すれば大会出場可能。競技資格や選抜基準を設けず、参加選手は年齢のみ(50歳以上)で選抜される。 ●約30競技からなるプログラムに競技が行われ、各年代別にメダル授与される。 ●元プロや元オリンピック選手も出場し、キャリアを超えて一般アスリートと競技を行う。 ●チームスポーツやメダリストは多国籍チームでの出場も可能。 ●両年を用いた大会プログラムが特徴。応募者としての参加選手が選手となる。 ●全ての競技において、各競技者の成績やチームの試合結果がマスターズ大会公開競技として正式発表される。 ●平均9日間の大会期間と前後の観光滞在のため、生涯スポーツ大会では最長の滞在期間。 ●ワールドマスターズ・ゲームズに向けて、新たに会場を建設することは禁止されているため、新たな会場建設費用は不要。	●原則4年に一度開催されるオリンピック大会は、世界最大の国際総合スポーツ大会として開催される。 ●各競技で予選はなく優勝すれば大会出場可能。競技資格や選抜基準を設けず、参加選手は年齢のみ(50歳以上)で選抜される。 ●約30競技からなるプログラムに競技が行われ、各年代別にメダル授与される。 ●元プロや元オリンピック選手も出場し、キャリアを超えて一般アスリートと競技を行う。 ●チームスポーツやメダリストは多国籍チームでの出場も可能。 ●両年を用いた大会プログラムが特徴。応募者としての参加選手が選手となる。 ●全ての競技において、各競技者の成績やチームの試合結果がマスターズ大会公開競技として正式発表される。 ●平均9日間の大会期間と前後の観光滞在のため、生涯スポーツ大会では最長の滞在期間。 ●ワールドマスターズ・ゲームズに向けて、新たに会場を建設することは禁止されているため、新たな会場建設費用は不要。

-41-